

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】

##### ○相談タイム（A・B中学校）

夏季休業日明けに、生徒が希望する教職員と二者面談を行う企画を実施している。生徒はクラス・学年を問わず様々な教職員を選び、日常生活の内容や悩みなどを話すことができている。生徒は様々な教職員と関わりをもつことで、より多くの教職員に相談できる環境がつけられている。また、この取組によって「全教職員で生徒を支えていく」という姿勢を生徒に示すことができ、学校が全ての生徒にとって安心して落ち着いて過ごすことのできる「居場所づくり」につながっている。

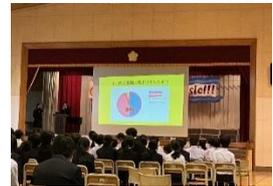
#### 【取組2】

##### ○小学生授業体験の際の生徒会役員による説明（B中学校）

生徒会役員が授業や学校生活の様子、本校の良いところについて紹介を行った。学校紹介動画の作成も行い、児童に見てもらえる機会をつくった。中学校生活の様子について生徒から語ることで、児童は中学校生活への見通しをもつことができ、安心感を味わうことにつながった。また、児童・生徒双方がつながりを感じることができた。

##### ○生徒主体の委員会活動の充実（C中学校）

「防災委員会」により、月1回の安全指導を全校朝礼形式にて行っている。災害への備えや不審者への対処法を生徒に親しみやすくクイズや実演形式で伝えている。学芸発表会では、防災委員会だけでなく選挙管理委員会、各学年行事実行委員等が工夫した活動発表を行い、全校生徒が「主体的に活動することは楽しい」と感じられる雰囲気づくりにつながっている。



#### 【取組3】（D中学校）

##### ○定期的な話し合い活動

毎月1回、各クラスの学級活動でテーマを設定し、話し合い活動を実施している。各班やクラスで意見の交換を行い、自己決定の場の提供や自己存在感の感受につながっている。

##### ○日頃の授業の改善

主任養護教諭や特別支援教室担当教員を中心にユニバーサルデザインを意識した指導の情報共有を行っている。その結果、生徒が安心して授業を受けられる環境づくりが構築されている。

#### 【取組4】（D中学校）

##### ○校内研修の実施

不登校対応巡回教員から「児童・生徒を支援するためのガイドブック」に基づく不登校支援を教職員に説明した。また、本区における関連機関の紹介、校内別室の活用方法についても説明した。校内研修の内容については、教員向けのたよりを発行し、全ての巡回担当校の教職員に周知した。

## 多様な学びの場を確保する取組

### 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

#### 支援会議（C中学校）

他校の校内別室の特徴とそれぞれのメリット・デメリットや対処方法を紹介した。生徒の多様なニーズに対応できる別室の在り方について考える場を提供することができた。話合いの結果、校内別室の室内レイアウトの改善、リラックスにつながる教材の導入を行い、より生徒が活用しやすい場となった。

#### アウトリーチによる支援（D中学校）

登校できずに自宅で過ごす生徒に対し、保護者と支援の方針を話し合った。月2回の家庭訪問にて母との会話を続け、2学期には当該生徒と初めて会うことができた。2回目には生徒自ら趣味の内容を会話する様子が見られた。今後も担任やSCと情報共有しながら生徒との関係を築いていく。

#### 校内別室における支援（A中学校）

各利用生徒について、特性や利用目的を教職員・保護者で情報共有し、方針を決めて支援にあたっている。学習を促す時間の取り方やリラックスする時間の過ごし方について教職員で共通認識をもって支援にあたり、目的を意識させつつ過ごしやすい空間を提供することができた。充実した教材も提供できている。

校内別室と教室の双方を利用する生徒については、校内別室が学年フロアに位置するという利点を生かし、効果的な学習支援を行っている。本人の得意な教科について、教室での授業と進度を合わせることで達成感を味わわせるよう工夫した。



#### デジタル機器を活用した支援（B中学校）

授業支援ツールを使って不登校生徒へメッセージを送り、生徒とのコミュニケーションの手段として活用している。また、学校のオンライン授業を自宅で利用する生徒について、接続方法を一緒に試し、スムーズに参加できるよう支援した。オンライン授業についてはより取り組みやすくなるよう整備を行っていく。

#### 関係機関との連携（全巡回担当校）

教育支援センターを月1回程度訪問し、通っている生徒の情報交換を行っている。8月にはスタッフ研修会に参加し、中学校における不登校支援についての説明や情報交換を行った。そこで得た生徒情報や関係機関の活用方法については各校の教職員に提供し、生徒や保護者の支援に役立てている。

## 成 果

各校の不登校支援や校内別室の好事例を巡回担当校に伝えていくことで、各校の状況に応じたより良い支援方法を考えていくことができた。

## 課 題

連絡を取りづらい保護者の場合には、保護者と不登校支援の目的を共有することや、関連機関との連携を改善する必要がある。